

美濃西国三十三観音霊場

総開帳

平成30年4月8日(日)～4月22日(日)

まぶしい陽を浴び、ピチピチの夏野菜が元気に顔をそろえています。
冷たいものが嬉しくなる頃、皆様暑中お見舞い申し上げます。
夏風邪が心配される中、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、先日的美濃西国三十三観音霊場総会にて
来年迎える総開帳の日程が決まりました。
今回は、平成30年4月8日(日)～4月22日(日)
この2週間、各お寺では観音様をご開帳し、
皆様のお参りをお待ちしております。



大智寺でも、秘仏の十一面観音様(伝行基作)を
この期間に限りご開帳します。
この期間は十一面観音様の指に5色の糸を巻きつけ、
その糸を白布につないで、善の綱とします。
お参りの際には、この善の綱をにぎることにより
観音様との一体感を体感していただければと思います。

また、総開帳に向けて観音様ののぼり旗(2,200円)を募集します。
のぼり旗にはご芳名をご記入させていただいた上で、境内に立てます。
どうぞお気軽にお声かけください。

妙心寺で味わう 大人の夏期講座

大本山妙心寺では全国の檀信徒(花園会員)を対象に夏期講座を毎年開いています。
ご興味のある方はぜひお申し込みください。

今回は「今年の漢字」でおなじみの清水寺の
貫主 森清範師を特別講師にお招きします。

この夏期講座では、臨済禅の講義だけでなく、
実践行として坐禅や読経及び写経も行い、
修行道場の作法に準じた粥座(朝食)も体験できます。
2日目の夜には懇親会も設けられており、
参加者同士の交流も楽しめます。



日時：8月25日(金)～27日(日)
場所：妙心寺・花園大学・花園会館
内容：臨済禅学・仏教学他
申込：平成29年7月末日締切
費用：全日程コース26,000円・1泊2日コース17,000円
(宿泊費・食費・テキスト代として)
定員：150名

お問い合わせ先

妙心寺派宗務本所 花園会本部 ☎075-463-3121
〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64

大智寺だより

平成29年文月
Vol.87

発行所

大智寺

岐阜市山県北野
668-1

電話：058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichiji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去の紙面をご覧いただけ
ます。ご活用ください。

6月号発行部数
200部

ご愛読
ありがとうございます



そろそろ見えなくなります。アオバズク

岐阜県では準絶滅危惧に指定されているアオバズクというフクロウの仲間が数年前から大智寺の山門前の大きな木で観察されるようになり愛好家の方々やカメラマンの方々に日々愛でられています。

「アオバズク」という名の通り、日本には5月、青葉が芽生える季節に飛来し、9月には東南アジアへと渡去します。産卵期間の約25日間及び、巣立ちまでの約28日間は、見張り役のオスを肉眼で見ることができますが、雛の巣立ち後、徐々に営巣木から周辺の林へ移動するため、「ホッホッ」という鳴き声が聞こえるか否かという程度になってしまいます。

だいたい7月20日過ぎには移動してしまいます。例年、ようやく夏休みに入った子ども達を楽しみに来山して下さいますが、既になくなった後で、がっかりされることが多いので、早めにお越しいただければ幸いです。



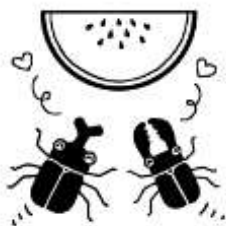
7月 お盆の棚経及びお掃除

今年も13・14・15日に、いつも通り棚経に回ります。日程は個別にお電話でお伝えした通りです。ただ交通状況などにより、多少時間が前後するかもしれません。暑い盛りですが、どうぞよろしくお願ひします。



また、例年行われておりますお墓及び境内のお掃除は、7月30日（日）朝7:00より西山の方々にお世話になります。朝早くからお集まりいただきますが、どうぞよろしくお願ひします。

～ 他家の法要に出る機会の少ない奥様のため 若い世代のため ～
(実際にお寺にご相談いただいたものから抜粋)



お寺のこと、仏壇のこと、法要のこと etc わからないこと 質問帳 ③③



「四十九日までの七日経をする場所がないんだけど」

故人がお独りで暮らしていらっしゃった場合、お亡くなりその後四十九日法要まで誰も住んでいない家で七日経を行うか悩まれる方がいらっしゃいます。さらに、女の子ばかりのご家庭ですと、嫁ぎ先での読経は難しい等の事情もあります。

そんな方々の場合、お寺で毎週七日経をあげることができます。だいたい七日経は平日の場合が多いので、ご自宅で七日経をあげる場合と同じように、ご家族が仕事後集まることのできる夜7時頃から行います。ご家族の方々はその時間に合わせて、お寺にて一緒に手を合わせていただきます。

亡くなった方は、死後7日ごとに閻所を通り、そこで閻所担当の仏様より教えをいただきます。閻所を無事通過できるよという意味も込めて、中陰棚の前でお勤めするのが七日経です。中陰和讃によれば、故人はこの四十九日の間この世とあの世の間の暗がりの中を、私たちの読経の声、御燈明、手向け水、香の火、供華だけを頼りに閻所を越えていきます。一週間に一度、心をこめて手を合わせたいものです。



～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～

お経のやさしい和訳（和讃）から
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典
31 ページより

35

「俱ともに作りし罪過つみとがの 我身わがみ一つに報むくい来きて」

我が身かわいさから、自分のために良かれと思ひ、人は罪過を犯します。でも自分のモノサシは、本当にアテになるものなのかと良寛禪師（1831年寂）は問いかけます。

「首こうべを回めぐらす五十有余年 人間じんかんの是非ぜ ひ いちむ一夢うちの中」（良寛）
人間世界で是といい非といい、善といい悪といい、褒められた けなされたといっているものは皆いいかげんなものだ、なんのアテにもならないものだ。
何事も人の目を離れ、仏の目で見定めることを旨とした良寛禪師の歌です。

自分にとって都合がいいかどうか考えていては、どうしても立場が変わると善悪が逆転してしまいます。「自分」から目を離し、「誰か」のために生きる心を「道心」といいますが、その昔「私には道心がない」と嘆く僧に対して、道元禪師はこう諭しました。「誰も初めから道心なんぞありはしない。発しがたきを発し、行じがたきを行じ、自然に心が育つ」この「発しがたきを発し、行じがたきを行じ」の部分が、厳しい僧侶の修行に当たりますが悲しいことに私たち凡人の場合、自力でどうにもならない病気や死の宣告を機にあきらめの境地を経て、この心の転換がおこりやすいようです。

夏の風習

夏空に蝉の声を聞く季節となりました。テレビを通して、プールや海で遊ぶ子ども姿にこちらも涼ませてもらっているこの頃、皆様がいかがお過ごしでしょうか。

今月7日は、七夕を迎えます。願い事を色とりどりの短冊に書きながら「笹の葉サーラサーラ」と口ずさんだ頃を思い出します。南北朝時代の『荆楚歳時記』によれば7月7日の夜、女性達は7本の針に美しい彩りの糸を通し、捧げ物を庭に並べて針仕事の上達を祈ったとのことですが、その昔は日本でも中国の風習を受け継ぎ、裁縫上達を願っていたそうです。

裁縫をする女性ということ、岐阜出身の中村久子さんを思い浮かべます。明治30年生まれの彼女は凍傷が元で特発性脱疽となり、3歳の幼さで両手・両足を失ったものの、母や祖母から裁縫をはじめ家事を学び、継父から虐待を受けた後は上京して一人暮らしを始め、「だるま娘」の名で見世物小屋にて裁縫や編み物をする芸を披露し生計をたてました。彼女は晩年こんな言葉を残しています。「人間は肉体のみで生きるのではなく、心で生きるのだ」

裁縫下手にも関わらず、もはやあきらめの境地で裁縫上達を願うこともない私ですが（笑）、せめて中村久子さんの言葉を胸に、美しい天の川を拝みたいものと思います。

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

朝食にさらりと味わう ビシソワーズ

- ① ジャがいも中4個と玉ねぎ中1個を薄くスライスする。
- ② 鍋にバターを溶かし玉ねぎをしっかり炒める。
- ③ ジャがいもを加えてひと混ぜし、水2カップとコンソメ2個入れて煮込む。
- ④ ジャがいもが柔らかくなったら、すべてミキサーに入れなめらかにする。
- ⑤ 再び鍋に戻し、牛乳2カップと生クリーム1/4カップ入れて温め、塩コショウで味を調え、冷蔵庫で冷やして出来上がり。



ジャがいも、玉ねぎ、どちらも旬を迎えて一番おいしい季節。ひんやり冷ましたスープを飲むと、朝から元気になります。もちろん、温めた状態でもおいしく飲めます。

♪ 月に一度はお寺まいり ♪

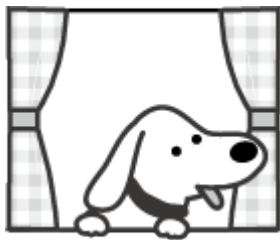
初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

7月23日(日) 一回 500円
(朝8時~9時) (内300円は義援金)
要申込

6月写経会 備忘録

瑞々しくあじさいの映える雨の日曜日。今回は落語「転失気」を楽しみました。立場があるので「知らない」と素直に言えない和尚さん、一方、「知らない」と言うこともウソをつくことも「屁とも思わない」無分別な境地にいる小僧さんの対比がおもしろい落語でした。今日はおいしい抹茶大福を参加者の方から頂き、一服。ありがとうございました。



お釈迦様が生きていた頃
あんな人、こんな人

第六話 「馬車のたとえ」
プールナさん



「あなたはブッダの教えに従って修行を積んでおられるようですが、
ブッダの教えとは何ですか？

戒を保つことですか？不動の心を持つことですか？それとも清浄の心を保つことですか？」

ある日、説法第一といわれたプールナさんのところにシャーリプトラさんが質問をしにきました。

「それらは段階として必要ですが、その一つ一つにこだわってはいはブッダの境地には至れません。
私たちは心身ともに完全に解き放たれ、まったくこだわりのない、自由自在な心を目指します。」
そう答えてからプールナさんは説明のために、こんな馬車のたとえを話しました。

ある国の王様が今日中に 300 キロ離れた国境の紛争解決にいかなくてはいけない事態となりました。
そこで 50 キロごとにつくってある要塞にのろしで合図をし、各要塞に一台の馬車を待機させ、
王様は合計6台の馬車を乗り継ぎ、無事目的を果たしました。
一台一台の馬車は、確かに大切ですが、一台の馬車にしがみついている間は間に合わなかったでしょう。

おなじように、戒も不動心も大切ですが、手段にこだわるのではなく、それらを乗り継ぐことで
こだわりのない、完全に自由自在のところまで到達することがブッダの究極の教えなのです。

ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、
ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、
その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。
必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、
葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めて
まずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方が
いなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒に
ひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。
永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから
「完全個別永代供養墓」といいます。
詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、
ご予約の上 ご来山ください。